



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

子宮への窓

この十五年間に数々の新しい技術が使われるようになった。医師達に「子宮を覗くまど」を提供するために考え出されたのだ。バーナード・ネイザンソン医師は、自分の人生に大きな影響を与えたといういくつかの技術をあげている。

(a) ウルトラ・サウンド：妊婦の腹部に高周波音を送る器具。跳ね返ってくる音はコンピュータによって集められ、画像に記録される。
(b) 胎児の心臓用電子探知機：妊婦の腹部にこの装置を当て、胎児の心臓の動きを瞬間的にとらえ続ける。
(c) フイトスコーピー：この視覚器具を直接子宮に入れると、医者は子宮の中の赤ん坊を見ることができ

きる。

(d) 診断：妊婦の子宮に針をさして、ウルトラ・サウンドによってへその緒の位置を突き止めて赤ん坊の血液を少量とり、診断の結果、薬を与えて赤ん坊の病気を治療することができる。まだお腹の中にいる赤ん坊に実際手術がなされている今日なのである！

「いずれにせよ」とネイザンソン医師は思い出しながら話す。「これらの新しい技術のおかげで赤ん坊を観察し、調査できる。新陳代謝機能を見たり、放尿するのを見たり、息を飲み込むところや動いたり眠ったりするのを見たり、ウルトラ・サウンドによって赤ん坊の目の動きから夢を見ているのがわかったりすると、この赤ん坊は私の一患者であるということに気づくのである。つまりこの赤ん坊は人間な

のである。私は患者の命を救うことを誓った一人の医者である。患者の命を奪うためにいるのではない。それに気づいた時はじめて私は中絶に対する考え方を変えたのである。」

「私の決断はなんら宗教的なものではなかった。」と彼は続ける。「考え方が変わったのは、純粹にこれらの新技術のおかげであるし、お腹の中の赤ん坊に対する新しい洞察力と認識によるところであるからだ。」

ネイザンソン医師

人との絆を

奪うもの

私達は、性の氾濫している文化の中で日々を過ごしています。テレビの広告や番組を通して、きらびやかに彩られた性をはつきりと見る事が出来ます。もしそれでもまだ物足りなければ、ビデオで裸体の映画を見るとき更なる選沢も可能なのです。

ポルノ雑誌についてはどうでしょうか。胸の悪くなる、人間性を奪うようなこれらの雑誌は、しかし広く読まれているのです。消費者は私達自身、そして私達の子ども達です。これらの雑誌を読み続けると、性的刺激が強いため、健全な性がゆがめられ、性にふけるようになりま。その根源には空想があります。空想は自己陶醉で、退行で、現実からの逃避でそして、我々を日常生活から引き

離すものです。空想は、我々が望むだけ完璧でありえます。何よりも悪い事に、我々にそれが現実であるように思い込ませる事です。

見事な体や性的勇ましさ、そして情熱の視覚的イメージを数年にわたって植えつけられている若い夫婦なら、平凡なセックスでは物足りなくなってしまう。相手は、普通女性の場合が多いのですが利用されたように思い、傷つきます。夫も妻を自分の満足のためのものとして扱い、彼の性的理想や要求が彼女にセックスパートナーとして自分が適切であるかどうかと、自己不信を引き起こさせ、次第に、夫がセックスの虜になっているように感じ始め結婚そのものが傷つけられます。夫婦の中には、空想のように満足できずに、もっとロマンティックなパートナーを求める人も

できてきます。「これだけ？」と感じて、だまされたと思うのです。

ポルノグラフィは、空想をより大きなものにしてます。不幸にも、あまりに多くの人々が、これらの禁じられているシーンを現実にする方法を見出しています。自分も他人もひどく傷つけて。ポルノグラフィは自分とのセックス、マスターベーション、マスターベーション、自己を孤立化してしまい、他人に喜びや愛を与える必要を省き、愛ほど様々な事を要求しません。

性は慎む事によって高められます。良い事もあまり多すぎてもありふれたものとなってしまいます。全部済ませてしまった後は何が残るのでしょうか。最もロマンティックで挑発的な映画は、単に淫らな想いを誘っているに過ぎません。裸体のシーンは我々の感受性を鈍らせ、逆

に我々の性的想像の火に油をさします。ポルノグラフィや空想、マスターベーションは、思考を性的なものにし、薬物やアルコールと同じく強い強さで毎日行わなければ我慢できない状態になります。性の日常化は我々を罪の意識や自己嫌悪、妄想や空虚、自己中心性へ導き、我々の世の中を寂しいものにしていきます。それは人間関係を台無しにするからです。その様な道に引きずり込まれ、もつとしている自分自身に今、「ノー」と言う時です。

バル・ファーマー

(ファーマー氏は健康と家族関係を専門とする心理学者である。)

ポルノコミック

中・高生6割

「読んだ」

中学、高校生の六割強がポルノコミックを読んだ経験があり、親の半数近くは「やむを得ないと」黙認している。総務庁が26日まとめた「社会環境に関する調査研究報告書」で、性のはんらんを持て余す世相が浮かび上がった。

五都県で中学、高校生二千二百九十九人と保護者六百五人を対象に調査した。それによると、ポルノコミックを「読んだ事がある」と答えたのは、全体の61%。うち男子の場合、中学生が64%、高校生が87%と年齢とともにアップ。女子は逆に、中学生が49%、高校生が41%と逆転現象を起こしている。

一方、保護者は「ポルノコミックを多少見る事は

やむを得ないか」との質問に、48%が「そう思う」と答、「それは思わない」の20%を大きく上回った。現在もポルノコミックを読んでいると答えた者を対象に、自分と同世代のセックスについて質問したところ、したければ「いい」「愛し合っていればいい」との回答が、高校生では男子が92%、女子が90%。中学生は男子が67%、女子が63%あった。

93年6月27日

読売新聞

貞潔とは

何でしょう？

貞潔は性の常識で、それがあれば、責任ある性を生きる事が出来る。尊敬すべき性：授けられた性欲は高く評価され崇敬や尊厳を持って扱われる。

貞潔とは

1 真正銘人間だけが出来る性衝動のコントロールです。

2 自分本位にならず、性の急さを打ち砕き我慢する正しい精神的エネルギーです。

3 性的感情の社会的なプレッシャーに負けないで、相手を大切にして、正しい判断をする力です。

4 一般的にうわべだけの事ですが、若者がのぼせたり冷えたりする現在の関係を避ける力を与える強さです。この強さがなければ、相手の体を一日限りの物として傷つけるような事になります。

貞潔とは性の真価を問うものである。

妊娠（受精）と

着床の違い

妊娠は新たな人間の生命の実質的な始まりを位置づけるものである。着床とは新しい生命が子宮の中に居場所を定める過程のことを指す。通常、一方のファロピオ管で受精が起こった後で、受精した卵子は管を下へと動き3日から4日の旅にでる。

今は桑実胚と呼ばれる砂一粒よりも小さいが、子宮の中にたどり着いた新しい生命は、子宮の柔らかい部分に入り込み子宮内から栄養分を得る。

受精後12日で子宮への着床は完了する。

生命の最初の数週間はおそらく小さなものではあるが、その新しい生命はもう母親の肉体の一部というだけではない。それは母親とへその緒を通じてつ

ながっているが、独立した循環組織を備えているものである。

—TFHRI—

尊厳と自由

1992年6月リオデジャネイロで国連会議が開かれ、環境と開発に関して大司教レナト・R・マルティノが次のように述べました。

「カトリック教会は、環境の管理と保護、及び開発に関する全ての問題に個人としての人間という観点から取りかかっている。これはローマ教皇庁の信念であり、それゆえ、全ての生態学的プログラムも開発の主導権も、このようなプログラムによって影響を受ける全ての人々の完全なる尊厳と自由を尊重しなくてはならない。彼らの家族と価値、所属する社会と文化的遺産、未来の世代に対する責任など、これらの要求に関して尊重されなくてはならないのです。環境と開発に関する

プログラムの基本的な目的は人間の生命の質を高める事にあり、又人類のために万物を可能な限り奉仕させる事にある。

物事の最終的な決定要因は人間個人である。科学でも技術でもなく、又環境や物質開発を増進するための方法でもない。それは人間個人であり、特にその集団である生活共同体や国家なのである。そして共に問題に直面する事を選ぶ自由を持ち、神のもと、未来を決定して行くのである。

責任感のある人間は破壊と浪費を行うのではなく、保護し、高める義務がある。謙遜であり、且つ傲慢でない事が環境と向かい合っている人間のとるべき正当な態度である。

環境と開発の問題を考える時、複雑な人口問題に十分に注意する必要がある。ローマ教皇庁の出版に関する見解はしばしば誤

解されている。カトリック教会は出産を推薦しているわけではないのである。人間の生命の伝達と管理は、責任という最大の意識のもと行使されなくてはいけないと主張している。

又、人間の生命は神聖な物であり、目的は家族の繁栄を高める事である。政府や体制の圧力がなく、家族の人数や、出産の間隔などを決定する事は夫婦の権利であるという立場を明確にしている。

このような決定は、神の確立した道徳的秩序が十分に尊重されていなくてはならず、又同時に、夫婦の互いへの責任、すでにいる子どもへの責任、社会への責任なども考慮されていなくてはならない。

カトリック教会は、目標である道徳的秩序や、人間の自由、尊厳、良心に反している事になる人口統計学的政策の押し付けや、産児制限方法の促進につい

て、反対を唱えている。又同時に、人間を単なる数としてや、ただの経済的指標として考える事もしていない。そして、貧しい者が、その存在自身が開発の十分と環境の墮落の犠牲者であるというよりも、その原因である、という関係を否定する事を強く主張している。

最終的にローマ教皇庁は国際的な生活共同体に、手近な問題には、精神的な次元もあるという事を発見させ、肯定させるきっかけを与えた。人間は、更にかきれいな空気と水と、さらなる経済と技術の発展を必要としており、又それを求める権利を持っている。人間は又弱い者であるので、開発された世界と開発

途上の世界のいずれによっても心が腐敗して気持ちが悪くされてしまわないように警告が与えられなくてはならない。憎悪や虚偽、非行などの広がり、

麻薬の取引や使用、残酷な自己中心性によって、他の者の権利(生命への権利でさえ)を無視させる事になる。これらの現象は道具で計る事の出来ないものであるが連鎖的な効果で、個人や社会を破壊しかねないものである。

全ての男性、女性、そして子どもに、安全で健康的な自然環境を与えるために我々は戦わなくてはならない。又、開発に携わるための機会を得るためにはならない。しかしその過程で、彼らの魂を奪わせる事をさせてはならないのである。又、環境の美的価値も考慮され、保護されなくてはならない。すなわち、開発活動に美と、奮い立たせるような芸術的な表現を付け加える事である。

対立の回避 正直な対話への従事、そして誠実な結束。全ての力が合わせられ、積極的な協力によって人間家族の希望を回復させ、地球の表面を生き返らせるのである。」

(NFP VICTORIA)

